

特別展  
綺羅きらめく

京の明治美術

—世界が驚いた  
帝室技芸員の神業



Special Exhibition  
Ornate Meiji Period Art:  
Shining Kyoto Artists of  
the Imperial Court

2022.7.23(土)—9.19(月・祝)

\*会期中展示替えあり

|前期| 7月23日(土)~8月21日(日) | 後期| 8月23日(火)~9月19日(月・祝)

京都市京セラ美術館

本館 南回廊1階 | Main Building South Wing 1F |

July 23 (Sat.)—September 19 (Mon. national holiday), 2022

Part 1: July 23 (Sat.)—August 21 (Sun.) Part 2: August 23 (Tue.)—September 19 (Mon. national holiday)

京都市京セラ美術館  
Kyoto City KYOCERA Museum of Art



特別展「綺羅めく京の明治美術—世界が驚いた帝室技芸員の神業」2022年7月23日(土)～9月19日(月・祝)

このたび、京都市京セラ美術館では特別展「綺羅めく京の明治美術—世界が驚いた帝室技芸員の神業」を開催します。

帝室技芸員とは、明治23(1890)年に発足した制度で、皇室によって優れた美術工芸家を顕彰、保護するものです。美術界のトップランナーというべき、一握りの美術家選ばれました。

制度発足の背景には、美術の奨励に加え、明治維新によって幕府や諸藩の庇護を失い、窮地に立たされた画家や工芸家を救い、優れた技術を保存する目的がありました。帝室技芸員は当代における美術の、最高の栄誉と権威を示す制度となり、昭和19(1944)年まで続くなかで、京都にゆかりのある美術家も多く選出されています。

本展では、制度が発足した明治期を中心に、京都にゆかりのある19人の帝室技芸員を紹介します。最高峰とたたえられた名作を通して、明治期京都の技と美をご覧ください。

主催：京都市、ライブエグザム、BSフジ、京都新聞、日本経済新聞社

会期：2022年7月23日(土)～9月19日(月・祝)

前期：7月23日(土)～8月21日(日)

後期：8月23日(火)～9月19日(月・祝)

会場：京都市京セラ美術館 本館 南回廊1階

開館時間：10:00～18:00(最終入場は17:30)

休館日：月曜日(祝日の場合は開館)

料金：一般：1,800(1,600)円 大学・高校生：1,300(1,100)円 中学生以下無料

※( )内は前売、20名以上の団体料金

※京都市内に在住・通学の高校生は無料

※障害者手帳等をご提示の方は本人及び介護者1名無料

(学生証、障害者手帳等確認できるものをご持参ください)

前売券発売日：2022年4月28日

美術館公式オンラインチケット、チケットぴあ(Pコード：686-062)、ローソンチケット(Lコード：52633)ほか主要プレイガイドなど



初代 宮川香山《高浮彫牡丹ニ眠猫覚醒大香炉》  
明治前期  
田邊哲人コレクション(横浜美術館寄託)



望月玉泉《麟鳳之図》明治40(1907)年  
京都市美術館蔵 前期展示

## 明治美術の一大ムーブメント！ 皇室技芸員が生まれた背景

明治時代、日本は政治経済において激動期を迎え、近代国家への道をまい進していきます。美術工芸もまた、そうした激動に伴い大きく揺れ動いていきます。近代国家として世界や国内へ文化を発信するためには、優れた美術工芸が必要不可欠であり、作り手は国や行政の要請に応じながら制作をおこないました。

近世まで画家や工芸家などは作品の注文主と向き合い、注文主のために制作をおこなっていましたが、明治時代では国全体の文化や後進の育成、技術の伝承など、より大きな理念を背負って制作することになりました。

明治政府が定めた皇室技芸員は、そのような近代における芸術家の生き方の変化を大きく反映した制度であり、その手による作品は、もっともよく明治という時代を反映したものといえます。

## 本展のみどころ

### 1. 巨大なスケール、華やかな日本画

画家が自身の名誉をかけて、力の限りを尽くして描いた代表作。スケールが大きく、迫力があり、華やかな一級品を多く集めます。特に、明治26(1893)年のシカゴ万国博覧会に京都の画家が出品した大画面作品(現東京国立博物館蔵)や、京都・岡崎の地で開かれた第四回内国勸業博覧会に出品した屏風(現静嘉堂文庫美術館蔵)など、京都でめったに見られない東京からの里帰り作品は必見！



今尾景年《花鳥之図》大正5(1916)年  
宮内庁三の丸尚蔵館蔵 後期展示

### 2. 工芸技術の頂点がここに！

明治時代は工芸の黄金時代です。開化における世界との文化交流で工芸品は好んで輸出され、万国博覧会などで注目を集めました。政府も産業振興を目的に工芸家の育成を重視しており、結果的に日本の歴史上類を見ないほど技術の高い工芸家が多く活躍しました。本展では、そうした時代のもっとも優れた作品を集めます。



左：並河靖之《蝶に花唐草文香水瓶》  
明治中期 清水三年坂美術館蔵  
右：初代 諏訪蘇山《葡萄透し花瓶》明治40~42  
(1907~09)年 石川県立工業高等学校蔵

### 3. 京都発！ 19人の個性の競演

明治期に美術工芸の頂点にいた19人のオールスターによる秀作が一堂に会します。さらに、京都画壇からの視点による展示として京都の作家を取り上げることで、明治時代に京都から全国に向けて発信されたメッセージを当時の社会動向を参照しながら振り返ります。

出品作家

森寛齋（もり・かんさい）

幸野樸嶺（こうの・ばいれい）

川端玉章（かわばた・ぎょくしょう）

岸竹堂（きし・ちくどう）

望月玉泉（もちづき・ぎょくせん）

今尾景年（いまお・けいねん）

熊谷直彦（くまがい・なおひこ）

野口小蘋（のぐち・しょうひん）

竹内栖鳳（たけうち・せいほう）

富岡鉄齋（とみおか・てっさい）

山元春挙（やまもと・しゅんきよ）

五世 伊達弥助（だて・やすけ）

加納夏雄（かのう・なつお）

三代 清風與平（せいふう・よへい）

初代 宮川香山（みやがわ・こうざん）

並河靖之（なみかわ・やすゆき）

二代 川島甚兵衛（かわしま・じんべえ）

初代 伊東陶山（いとう・とうざん）

初代 諏訪蘇山（すわ・そざん）

主な出品作品



左：望月玉泉《唐獅子牡丹図》（部分）、明治28（1895）年 東本願寺蔵／中：幸野樸嶺《舞妓鳥籠図》明治9（1876）年 海の見える杜美術館蔵 前期展示／右：幸野樸嶺《妓女図》明治6（1873）年 京都府蔵（京都文化博物館管理） 後期展示



左：岸竹堂《虎》明治26（1893）年 東京国立博物館蔵 TNM Image Archives 後期展示／中左：神坂雪佳（図案）、二代川島甚兵衛《紋織窓掛試織「百花」》（部分）、明治37（1904）年 川島織物文化館蔵 画像提供：川島織物文化館／中右：重要文化財 三代 清風與平《白磁蝶牡丹浮文大瓶》明治25（1892）年 東京国立博物館蔵 TNM Image Archives／右：重要文化財 初代 宮川香山《褐釉蟹貼付台付鉢》明治14（1881）年 東京国立博物館蔵 TNM Image Archives

### 関連プログラム

展覧会解説講座「皇室技芸員から見た京都」

日時：2022 年 8 月 27 日（土）14:00-15:30

講師：森光彦（京都市京セラ美術館学芸員）

会場：京都市京セラ美術館 地下 1 階講演室

参加費：無料（予約不要、先着順、要当日観覧券）

定員：60 名

\*その他ギャラリートークなど、さまざまな関連プログラムをご用意しています。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

### 展覧会図録

京都にゆかりのある皇室技芸員の作家をまとめて紹介する初の試みとなる図録。ためになるコラムも掲載。華やかな作品を楽しむ画集としても、皇室技芸員をめぐる明治の制度史をひもとく研究書としても必読の一冊です。

論考執筆者：後藤結美子、森光彦（京都市京セラ美術館学芸員）

編集：森光彦、後藤結美子、中山摩衣子（京都市京セラ美術館学芸員）

ページ数：176 ページ（予定）

判型：B5 変型

言語：日本語

価格：未定

発売日：2022 年 7 月 23 日（予定）

### マンガで紹介！ 作家の軌跡

本展出品作家にまつわるエピソードを、マンガにして分かりやすく紹介します（当館ウェブサイトや SNS で順次公開予定）。制作は、日本美術史上の人物を研究、マンガで紹介する活動をしている日本画家の河野沙也子氏が担当。事前にマンガで理解を深めることで、本展をよりいっそうお楽しみいただけます。

-----

#### **【広報画像申請フォーム】**

<https://forms.gle/1uVwFT7zbbLi4yhA9> から必要事項を記入の上申請ください。即時ダウンロードリンクを発行します。

#### **【本展のプレス問合せ先】**

京都市京セラ美術館 広報 西谷・水野

pr@kyoto-museum.jp 電話：075-275-4271